

日 時：令和6年2月27日(火)

9:15～ 9:55 本校の資源見学・体験

10:15～11:15 学校運営協議会

会 場：岩手県立盛岡となん支援学校視聴覚室

第1部 本校の資源見学・体験

スマート家電体験、VR体験、図書室見学（寄宿舎棟、スロープ、図書室見学）

第2部

1 開会のことば（会長）

2 校長あいさつ

今年度2年目を迎えた学校運営協議会ですが、本日が今年度の総括としての開催となる。第1回および第2回に引き続き、委員の皆様には次年度につながる学校運営、そして盛岡となん支援学校の未来を語る会になることを期待している。

さて、本日の内容は、熟議として、第2回のこの会を経てまとめた。皆様からの自由な発想・活発な御意見を基に、本校の教員や保護者の皆様からの意見も含めて説明し、本校の未来につなげるためにいくつかの提案をさせていただきます。

また、協議としては学校評価に係る説明が一つ、そして、ここ3年ほどは大きく変えてこなかった、本校の学校経営計画について、改定することについても御説明する。これは、特別支援教育における評価の観点を取り入れる新しい視点を盛り込んでいるものである。以上2点協議事項と1つの熟議につきまして、皆様から忌憚のない御意見と御指導を賜りたい。

3 協議・熟議

(1) 学校評価・・・「令和5年度 盛岡となん支援学校 学校評価」 資料4ページ 考察参照
担当副校長より、各評価における分析と結果について説明。

(2) 盛岡となん支援学校の学習の充実のために！&地域のために本校ができることのまとめ

・・・資料2・3参照

ア 資料解説（担当より説明）

昨年度のテーマに加えて「地域のために本校ができること」を加えて熟議をしてきた。

2回目の学校運営協議会の様子を児童生徒・職員・保護者が見ることができるようにポスター報告ができるような形で進めてきた。

1回目は、昨年度から矢巾東小と交流ができればお互いの児童生徒の成長発達につながるのではないかと。橋を架けると良いのではないかと。「インクルーシブ教育を推進するためにも橋を架けよう。町や県に訴えていこう。」ということとなっていた。お互いの距離を縮めるためにも「夢の懸け橋」できるといい。ということで確認した。

本校がこれまで地域の方と行ってきたことを、学校経営概要を基に柱にしながらいふに御意見をいただいた。

①自然・戸外・緑・環境・・・・・・・・・・畑を矢巾東小さんと名取さんから借りた。

②ともに学ぶ喜び・共生社会実現の一步・・・・矢巾東小との合同授業。ゲーム大会など。

③自分の良さ・生きる力・・・・・・・・・・学習発表会の相互参観

- ④地域とともに・・・・・・・・・・・・・・・・地域への貢献。一般の方の参加（ボランティア）
- ⑤防災・・・・・・・・・・・・・・・・矢巾東小と一緒に物貸し出し、引き渡しなど

職員室前にポスターを掲示したところ、何を話し合ったのか良くわかったなど職員から多くの反響があった。

矢巾北中学校・職場体験

矢巾北中学校から今年度に入り、「職場体験をさせてほしい」と申し出があり、5名の生徒を受け入れた。主に小学部の学級に入り子ども達とかかわった。中学生の視点としては、職場体験なので「先生の仕事はどのようなものか」「先生が日頃気を付けていること」を話してほしいということで二日間体験した。職場体験後、中学生からの手紙には、一人一人からとてもいい言葉や気付きが書かれていた。職場体験を通して本校の児童生徒は、とてもいい関わりや中学生から合唱を披露してもらうなど良い体験となった。

「はつらつ えぞもり会」～昔あそび体験～小学部

昨年に引き続き今年度も11月に「はつらつ えぞもり会」の方6名に来てもらい、「昔あそび体験」をしていただいた。最初、子ども達は緊張していたが、「えぞもり会」の方が子ども達を下の名前で呼んでくれるなど自然体で接していただき、世代が離れていても対等に活動し関わられるようになった。交流会は授業の中で実施したが、もったいないので、昼休み時間まで時間を延長していただいて、小学部高学団から中学部までの多くの児童生徒が体験することができた。「あやとりにはまった子」がいて、昨年難しかった「あやとり：ゆびきり」ができるようになり、夢中になった場面があり、その子が「えぞもり会」の方5～6人に囲まれる展開になった。その様子をさらに周囲にいた他の人たちがほほえましく様子を見守るなど交流が深まった。

ポスターの報告を受けて職員と保護者（PTA理事会の役員）に御意見を伺った。

【質問事項3項目】

- ①付箋を見て気になるところや、共感したところがありましたか。
- ②矢巾東小との動線が短くなったらどんな夢が広がりますか。
- ③学校運営協議会に対して、御意見があれば、御記入ください。

【職員の声】33名回答の中から

1と2 ともに学び喜び

- ・校庭がない遊具や砂場がないので、施設を気軽に共有できれば自然な交流の場になる。
- ・防災に関する意見。
- ・交流が進むのは良いがセンターに入院している子のハードルが高いと感じている。
- ・地域の一員として、となん支援学校が位置づいていくような話し合いになってほしい。

8 日常的な交流という点に共感された方

- ・幼い頃から共存ということを知る良い経験・刺激になると思う。
- ・日常・自然というような環境を整える。
- ・学校運営協議会にたいして、となん支援学校のために、これだけ話し合い、時間をとっていただいていることを知り感謝している。発信するという事は大事なことだと感じた。

9 児童が行き来して

- ・にぎやかなインクルーシブコミュニティーが構築できる。
- ・Iグループの児童生徒の合同授業を強く望む。という意見がある。これは、夢というか未来・希望というか、隣同士学校間でこのような関係になるといいなという夢を描いている。

10 12 14 防災

- ・避難というところについて書かれている

21 地域とともに

- ・地域と学校がWinWinになれるように本校にもできることがあればいいと思う。
という意見。これは、職員が必ずしもこの地域に住んでいないことから、地域から本校に「こんなことに加われればなどアイデアを教えてほしい」地域とともにという気持ちから上がっている。

24 Aさんの地域住民を巻き込む行事

- ・Aさんの地域住民を巻き込む意見に、共感するという声が上がっている。
- ・喫緊の課題として駐車場問題が挙げられている。

【保護者の声】PTA役員の方5~6名にポスターを見てもらい御意見をいただいた。

2 子どもたち同士抵抗感なく

- ・子どもたち同士抵抗感なく、共に活動できること事が増え、障がいを意識しなくても生きることができ世の中になることが期待できる世の中になってほしいという保護者の願いが書かれている。

3 具体的に両校の交流・防災

- ・具体的に両校の交流。矢巾をボッチャの街に。学校周辺に花を植えて矢巾東小と盛岡となん支援学校の学校周辺を明るくしたい。
- ・防災学校と交流をしながら、障がいのあるものがどう備えていったらよいか。委員会として取り組んでいった方が良くはないか。

【はつらつ えぞもり会】アンケート

- ・最初は、戸惑いもあったが、すぐ仲良しになり一緒に楽しむことができた。
- ・機会があれば、となん校に伺い、たくさん触れ合いたい。
という声があった。ありがたいことだと思う。

[担当者]

- ・全員ではないが、お声掛けすると、インクルーシブ教育「共に学ぶ、共に生きる」声が多くあった。障がいがある、なしにかかわらない世の中という声がたくさんあったとともに、このような取組がいいという声があった。このような取組を続けていく必要があると担当としては思っている。

【報告を受けての感想・意見】

- ・地域の方、と先生方との意見や交流というかコミュニケーションの場があると助かるなと思う。
- ・本校もこちらに来て、5年なので新しいということもあり、地域の方に見てもらえていないというところがある。ホームページだけでなく情報発信していく必要がある。学校へ行こう週間・学校祭などに来ていただき、まず、見ていただくこと、知ってもらうこと、来ていただくことが課題だと思っている。

《質問》

・職員の声の1番の方の、「センター生が学部との交流をもつことのハードルの高さ」について、学校が地域に出たり、地域の方々を学校に入れるなど、外部と交流をもとうとすると、(センター生の)ハードルが高いことについて質問します。安全安心を共有できないとなかなか難しいとは、学校が安全安心にハードルが高いと感じているのか。または外部へ出て交流することや地域へ出ていくことを学校や保護者があまりやらなくていいという意識なのか聞きたい。

《回答》

- ・学校では、今年度について、(校外学習・修学旅行など)「出られない子については、仕方がないし、出られる子は行きましようという」ことで外へ出ている。すべての修学旅行や校外学習について同様に実施している。
- ・センター生とは療育センターに入院している児童生徒のことで、センターの所長、ドクターの方針で外出の許可・不許可がでる。逆に学校の先生方には御苦勞を御掛けしている。

例えば、Aという場所に行くのにも、全部行けないので代替案のBで、というように本当に工夫してもらっている。できれば、学校の先生方は、一斉にやりたいと思ってるだろうし平等に教育をと思っているところを、保護者の意向などもあり、代替案でやっていただいている。授業内容や活動内容を見てこれは行ける、行けないという判断をしている。そういう意味でハードルが高いということだと思う。

《質問者》

「一律は、難しいね」ではなく、「一部難しい子もいるよ」という現場の声(ニュアンス)ということだと確認できた。

- ・交流に関して一つアイデアの提供

例えば、ネット環境・大型のスクリーンもある。来れる方は、来てもらう。来れない方は、別の活動はたは、スクリーンで活動を見ていただくことも会場とネットで繋げれば可能である。図工などの共同制作では、後で合わせて作品を作るなどできることがあると思う。

医療の部分を考えれば、普通の学校であれば感染症が0は、ありえないのでどうすればできるのか、何ができるのかを探ることはできる。「何か1つはやってみようよ」「何がとっかかりになっていくのか」お互いの担当者同士で話し合っていきたい。

- ・資料にないが地域に役立つという意味では、2つ動きがあった。

1つ目は、10月に矢巾町から福祉避難所に指定したいという申し出があった。住み分けが難しいところだが、研究を始めたところである。盛岡市から電話だけであるが、個別の避難計画を立てるには、となん支援も考慮したいという申し出があった。今年度の3月には、気仙光陵支援学校と大船渡市が締結しているので、視察に行くことになっている。

2つ目は、中学生の職場体験と初任者研修の申し出があった。某進学校の初任者の先生を、「進学

率などで学校を考えるのではなく、支援学校でも勉強させてください。」ということで、高校にも支援が必要な生徒がいるため、進学校の着任した新任者にも支援学校を1日体験してもらっている。

【今後、交流をどのような所と進めたらいいか】

- ・本校としては、地域の方は18名登録（ボランティア）している。残念ながらコロナで出入りできないため活用していない。プール学習での監視の方をどうにか工面できないか。朝、登校時の駐車場整理を地域の方の手を借りれば良いかと考えている。有料の業者もあると思うが、地域の方の手を借りれたらなと考えている。事例は今のところない。
- ・地域の財産がいっぱいある。産業技術短大さんが近くにあるので、その学生さんたちが、直接児童生徒と交流するのではなく、例えばスロープが壊れている・段が壊れているなど施設設備を補修や修繕を依頼し、作ってもらうなど協力してもらうことができると思う。そのようなニーズをあることを知らない人もいますので、そのような協力を得ることもボランティアになるので、そのようなところを開拓することも一つの方法ではないかと思う。

【県への意見申出書提出についての方向性】

県への申出書の提出は、期限がなく、出したいタイミングで出せる。交流の基盤を作りつつ、そして保護者の意見を合わせながら、何度も出していきながら、実現のために向けて進めていく。来年度も学校運営協議会は続くので、交流を進めながらこの意見申出書についても図りながら進めていく。というところで熟議は終わりたい。

(3) 学校運営計画（案）について （校長より説明）

本来であれば、年度内に運営委員の皆様へ説明して認めていただいて次年度にという流れだが、2月のこの時期なので、新任校長先生の御意見を聞いて完成させたい。完成版については、次年度の第1回で新たに示す予定である。赤い文字は修正したものと、黄色の塗りつぶしたところがある。次年度の案である。比較資料として令和5年度現行のものを出している。大きく変わったところは、黄色で塗りつぶしてある。赤で修正してある文字については、多くの支援学校で、各校障がいに合わせて教育課程を先に準備している流れがあるが、文部科学省より「学校が教育課程を考えて、子どもが合わせるのではなくて、その子にとって何が必要かを見て教育課程を考えるべきである。合わせた指導・自立活動も否定はしないが、本来、教科の狙いをもって指導するのが学校であるから、教科の力をつける前にここを十分に育てることで教科に向き合えるんだという説明責任を果たしているか。児童生徒に向き合って確かな学びに結びつけられているか。」と再三いわれている。本校も3つの教育課程を準備しているが、それぞれ本当に子どもに合っているのかカリキュラムマネジメントができているか確認していく必要がある。

4 その他

【感想】

- ・来年度、小学校では教科書が変わる年になる。カリキュラムそのものを編成していくので「何ができるか、何ならどこから一緒にできるか」考えていきたい。
- ・話したいことは、先ほど話しました。ぜひ、winwinになればいいなあと今回も強く感じている。
- ・となん支援学校は、新しい学校ですが、地域の方の理解が深まってきているなとくるたびに感じている。これからどのように充実行くか非常に楽しみである。今日は、ありがとうございました。
- ・協議した内容が実現できるとよう皆さん頑張ってくださいなと思っている。ふれあいランドいわてで

は、ニュースポーツ機器を充実したので、機会があったらぜひ活用してほしいと思います。

- ・運営協議会の様子を先生方に見ていただきフィードバックしているのは、本当にいいことだと思った。私どもの法人の会議は、職場では、現場の職員になかなかバックできていない本当に素晴らしいことだと思っている。
- ・本校と矢巾東小との交流があれば、その先に「架け橋」が実現するのかなと思っている。交流を一つでも実現していただければいいなと思っている。

5 閉会のことば（副会長）